

1920 年代上海における学校衛生事業の開始と展開： 近代的衛生の導入、普及の場としての学校に注目して

徐，佳汝

<https://hdl.handle.net/2324/7363559>

出版情報：Kyushu University, 2024, 博士（教育学），課程博士
バージョン：

権利関係：Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (3)



氏 名 : 徐 佳汝

論 文 名 : 1920 年代上海における学校衛生事業の開始と展開
—近代的衛生の導入、普及の場としての学校に注目して—

区 分 : 甲

論 文 内 容 の 要 旨

本研究は、1920 年代上海における近代的衛生の導入と普及の過程を、中華衛生教育会と上海特別市衛生局による学校衛生事業の開始および展開を通して明らかにするものである。中華衛生教育会と上海特別市衛生局は、学校という場を利用し、子どもに対して衛生教育を行うと同時に、学校を介して住民に近代的衛生知識を伝達し、衛生的生活習慣を養成しようとした。その具体、すなわち、近代的衛生の普及における学校の二重性（子どもを対象にする衛生教育の場であり、かつ住民への啓蒙の媒介でもあるという二重性）を解明することによって、近代的衛生の上海社会への導入と普及の様相を解明する。

近代的衛生とは、19 世紀以来中国に移入された近代西洋医学に基づく衛生に関する知識や概念と、人々の日常生活、健康の維持のための習慣として定着することを可能とするような近代的な価値観、認識体系全般を意味する。この新しい衛生観が、国家制度として欧米から日本を経由して中国に導入されたのは 20 世紀以降である。それまでは、中国医学と西洋医学は「文明の本質」についての東西論争を引き起こしつつも共存していた。しかし 1920 年代には、民族主義者や知識人によって「全般的西洋化」が提唱され、伝統的中国医学は近代化を阻むものとして批判されるようになった。本研究は、西洋医学に基づく近代的衛生が導入され、制度化された 1920 年代の上海において、学校が、その伝達、普及の場としての機能を期待され、学校衛生事業が実際に展開された経緯を明らかにすることで、学校に付与された新たな意味を解明する。

第 1 章では、1920 年代初頭の中華衛生教育会による学校衛生事業の展開を検討した。第 1 節では、中華衛生教育会の成立経緯や構想について検討し、学校衛生事業の着手と、展開過程を明らかにした。中華衛生教育会は予防医学を根拠に衛生の教育、宣伝活動を展開したが、その効果を高めるために、何よりも学校の重要性を強調した。第 2 節では、アメリカから導入された衛生教科書に注目し、中華衛生教育会による翻案の経緯を分析した。教科書の内容の削除や抽出を行うことで、中華衛生教育会は、当時の中国の状況に適合するような衛生教育の方法を教員に伝達しようとしたのである。第 3 節では、中華衛生教育会による学校衛生事業の展開を解明した。中華衛生教育会は学校において健康診断、環境整備を行い、教員向け夏季学校を設置し、医学生対象の奨学金授与、作文コンテストを実施した。衛生事業に対する住民からの懷疑や反発を受けつつも、中華衛生教育会は、子どもの疾病予防、生活への配慮を含めた学校衛生事業を推進し、学校を介しての近代的衛生知識の普及に努めたことを明らかにした。

第 2 章では、1920 年代後半、上海における学校衛生の制度化の過程、すなわち、上海特別市衛生局による学校衛生事業の展開を解明した。第 1 節では、上海特別市衛生局の成立とそれによる学校への着目の経緯について明らかにした。「衛生強国」論の下、公衆衛生、特に学校衛生事業が国民の

体格向上の重要かつ強制的な手段として注目され実施されたのである。第1節では、南京国民政府及び上海特別市における衛生行政システムの成立に伴い、学校衛生が行政管轄の下に置かれたことを確認した。こうした制度化過程において、上海特別市は「大上海衛生設計意見書」を發布し、学校衛生を含む公衆衛生上の課題を提示し、公衆衛生の推進について構想した。第2節では、上海特別市衛生局による学校衛生計画に焦点を当てた。国民政府衛生部による全国の衛生計画に沿って、上海特別市衛生局は上海の状況を鑑みて学校衛生実施計画を策定した。第2節は計画の内容を通して、上海特別市衛生局が学校衛生に介入しようとした動きを解明した。第3節では、学校に診断や治療など医療的機能が付与されるようになった経緯を解明した。具体的には、上海特別市衛生局による学校医・看護師の配置、学校診療室や学校環境の整備、さらに学校での身体検査・診断の実施、学校と連携関係を保つ診療所の設立、衛生常識試験の学校での実施などについて、それぞれの展開の詳細を検討した。このような上海特別市衛生局による「子どもの身体管理」の具体を通して、上海特別市衛生局は学校を利用し、住民の多くが依拠していたであろう伝統的中国医学に代わって、近代的衛生知識を正当化し、それに基づく日常生活習慣を子ども、さらに住民に身につけさせようとしたことを明らかにした。

第3章では、学校を経由する親との連絡・相談、衛生運動大会の実施を分析することで、上海特別市衛生局が、子どもを通して間接的にその父母、さらに地域住民に対して衛生観念を啓蒙し普及させることを明らかにした。第1節では、子どもの健康診断結果についての連絡通知文書や、健康診断への参観、家庭訪問の実施状況から、上海特別市衛生局が、学校医や学校看護師を通して親に近代的衛生知識や習慣を浸透させることを期待していたことを確認した。第2節では、上海特別市衛生局による衛生運動大会の実施において、「将来の国民」と見なされた子どもを、衛生劇、パレードおよび学校衛生展覧会に参加・動員させたことを明らかにした。上海特別市衛生局は子どもを利用し、近代的衛生知識を住民に伝達しようとしたのである。

本論文は、交通の要衝として国際性が高い上海において、1920年代に疫病の予防・治療をめぐる西洋近代医学の理論が重視され、それを基にした近代的衛生の知識や習慣が住民に浸透していく場としての学校に着目した。学校は、教員が衛生教育の授業や教材などの手段で子どもに衛生知識や習慣を教育する場であると同時に、住民を対象とした衛生普及キャンペーンである衛生運動大会に子どもを参加させる単位となったのである。これが、学校の二重性である。学校の二重性を明らかにしたことにより、本論文は国家による住民の健康管理と教化への着手と展開の中で、学校を媒介とする近代的衛生をめぐる国家と個人の関係が再構築されていく過程——すなわち、個人の健康が国家の管理の下に置かれ、国家が学校を利用して近代的衛生知識を個人に普及し、その普及を通して個人の健康増強とその管理を実現しようとした過程——を解明したことに意義がある。